

第1回 幕別町総合計画策定審議会 会議録

- 1 日 時 平成29年7月26日(水) 午後7時00分～午後8時47分
- 2 場 所 幕別町役場3階 3-A B C会議室(選考委員会時に議員控室を使用)
- 3 出席委員 國安委員、鯖戸委員、宮本委員、高道委員、三田委員、三島委員、大谷委員
工藤委員、岡田委員、堀川委員、村田委員、谷地田委員、仙石委員
杉山委員、木藤委員、木川委員、高嶋委員、大和田委員、岩谷委員
森委員、埴山委員、小澤委員、前野委員、折笠委員、細谷地委員
渡邊委員、西田委員
(欠席:清弘委員、笹井委員、大西委員)
- 4 町出席者 飯田町長、山岸企画総務部長、山端政策推進課長、西嶋副主幹、
西明副主幹、佐々木
- 5 傍聴者 十勝毎日新聞社 眞尾 敦氏、北海道建設新聞社 大坂 力氏
- 6 会議要旨
 - (1) 開会
 - (2) 委嘱状の交付
 - (3) 町長挨拶

総合計画は、10か年のまちづくりの指針として非常に重要なものである。平成23年の地方自治法の改正により、従前は策定が義務付けられ、策定するには議会の議決が必要であったものが、任意となり、議会の議決も不要となった。しかし、総合計画はまちづくりの指針として重要なものであるため、本町では策定をし、議会での議決を経ることとした。

具体的に、総合計画づくりは昨年度からスタートしており、「町民アンケート」、「こども議会」、「アイデアBOX」、「まちづくりワークショップ」を実施し、町民の皆さんに参加をいただき、本計画のエキスをつくってきた。

この度、総合計画の形ができてきたため、皆さんに諮問をし、内容を審議いただくこととなった。11月末までの間に5～6回の審議会の開催となり、非常にタイトなスケジュールではあるが、尽力をいただければ幸いである。

全国各地で、人口減少対策がまちづくりの課題となっている。本町でも、平成26年をピークに、人口が減少している時代に突入した。少子高齢化対策については、すぐに改善できるものではなく、10～20年のスパンの中で、いかに子どもを産み育てたいと思う人を増やすことが重要となる。

地方創生総合戦略の中で、人口ビジョンを策定し、2060年の人口推計を19,457人とした。人口を維持するためには、合計特殊出生率2人以上必要となるが、この人口推計は、人口ビジョン策定時の合計特殊出生率1.46人を1.55人に引き上げてのもの。そのため、10～20年のスパンの中で、子どもを産みたいと思う人を増やしたいと考えている。そのため、本審議会で、皆さんの率直な意見をいただき、10年間の指針に反映していきたい。

また、皆さんには、これを機にまちづくりに参加をしていただきたい。まちづくりは、町民との対話を重ね、そこから町民の皆さんから思いをいただき、町民と一緒に実現することだと考えている。

良い計画ができるよう、皆さんからの積極的な提言をいただきたい。

(4) 会長の選出

- ・事務局から過去の例により、選考委員会を設置した中で、会長候補を選出し、審議会の承認を得る方法を提案。(異議なし)
- ・慣例により、事務局から選考委員を選出。
- ・事務局から宮本委員、堀川委員、谷地田委員、森委員、渡邊委員の5名を指名。
- ・選考委員会後、選考委員長の谷地田委員が「笹井委員」を推薦。(異議なし)
(当日、笹井委員が欠席していたことから、選考委員会中に事務局が本人に連絡をし、会長の推薦決定と選任された場合の就任の承諾を得る。)

(5) 会長職務代理者の指定

- ・事務局が笹井会長に連絡をし、岩谷委員を指定。
- ・岩谷会長職務代理者から挨拶。

(6) 諮問

- ・飯田町長から岩谷職務代理者へ諮問書を手交。
(諮問書を手交後、町長はその他公務により退席)

(7) 議事概要

- ① 計画の構成、策定体制、今後のスケジュールについて
 - ・山端課長より資料3に基づき説明。(質疑なし)
- ② 配布資料の説明について
 - ・西明副主幹より資料4～9に基づき説明。

【質疑】

(堀川委員)

- 資料4「町民アンケート調査結果報告書」の2ページ「これからも幕別町に住み続けたいと思いますか」という質問に対して、「近くの市や町村に移りたい」の希望先として、帯広市、音更町、芽室町とあるが、この回答は選択方式か記述方式であったのか。

(事務局)

- 自由記載での回答である。

(堀川委員)

- 資料4の3ページ「幕別町に住み続けたいと思う理由はなんですか」という質問に対して、10%以下の項目が多く見受けられるが、事務局の考えは如何。

(事務局)

- 「住み慣れた愛着がある」、「自然や空気など環境がよい」など、割合の高い項目に回答が傾いていることが理由と考えている。

(堀川委員)

- 資料4の5ページ「これからの幕別町について」で、上位3項目の記載があるが、町としてどのように分析をし、感じているか。

(事務局)

- 詳細なデータを持参していないため、次回の回答とさせていただきたい。

(堀川委員)

- 資料4の6ページ「人と自然が調和した環境を作るためどのようなことに取り組む

ことが必要ですか」という質問に対する回答にある「不法投棄などの対策強化」とあるが、不法投棄の現状は如何。

(事務局)

- 詳細な数字は持ち合わせていないが、毎年実施している全町クリーン作戦に参加している中ではまだまだ減っていない印象である。また、沢地をはじめとする見えない部分には大型ゴミがあると担当課からは聞いている。

(堀川委員)

- 資料4の11ページ「地域活動について、どのような活動に参加してみたいですか」という質問に対する回答のすべてが30%を下回っているが、これを町民の地域活動への意識が高いと見るか、低いと見るか見解を伺う。

(事務局)

- 平成17年から協働のまちづくり支援事業を実施しているが、年々、事業申請件数は増加している。30%という数字にいろいろな思いがあると思うが、地域で活発に取り組んでいただいております、数字が落ちている訳ではないと感じている。

(堀川委員)

- 資料4の13ページ「まちづくりのアイデアについて」で、最も多かった回答の「観光・物産・イベント」について、自分の所属団体である観光物産協会を取り上げたいと思うが、詳細如何。

(事務局)

- 詳細なデータを持参していないため、次回の回答とさせていただきたい。

(堀川委員)

- 資料7「まちづくりワークショップ報告書」に関して、ワークショップに参加された前野委員、小澤委員の感想を伺いたい。

(前野委員)

- 限られた時間の中での議論であり、あまりにも時間がなかった。もう少し回数を増やし議論ができればと感じた。

(小澤委員)

- あまりにも議論するには時間が短かった。多くの課題がある中で、的を絞って議論したが、それでも課題が多かった上、自分が所属した総務文教部門では欠席者が多かったこともあり、あまり議論がまとまっていない印象である。しかし、北海道科学大学の大学生という第三者の意見があったことは、非常に良かったと感じた。まちづくりのワークショップは、今後、発展的に実施していくことは重要である。

(仙石委員)

- 資料4「町民アンケート調査結果報告書」の1ページに回答数2,103票とあるが、年代別、地域別はどのようになっているか。内訳によって、その世代の意見が偏ると思う。

(事務局)

- 年齢別の割合は、60代が23.3%、70代が23.1%、50代が15.6%、40代が15.2%、30代が13.6%、18～29歳が8.4%、年齢不明が0.8%となっている。

地域別は、札幌市街地が67.4%、幕別市街地が17.3%、その他は農村地区とその他地区となっている。

③ 第6期総合計画基本構想(案)について

- ・西明副主幹より資料10に基づき説明。
- ・本件は、説明のみとし、次回の審議会で意見等をいただくこととした。

④ 部会の構成(案)について

- ・西明副主幹より資料11に基づき説明。(異議なし)
- ・部会の構成を別紙11で決定。

⑤ その他

【質疑】

(森委員)

- 次回以降、議論の基となる資料がアンケートやワークショップの資料になる。資料が足りないと思う部分があり、町民アンケートの詳細版を提供いただきたい。

(事務局)

- もう少し、詳細なものを提示できるようにしたい。

(8) 閉会

以上